

臨床薬理学	山田 忍 教授
Clinical Pharmacology	西谷 友重 教授
	陳 以 珊 講師
1 年次前期・がん看護専門看護師コース必修	納富 拓也 講師
2 単位・30 時間	井上 潤 非常勤講師
	上田 弘樹 非常勤講師
	山本 明弘 非常勤講師

【概要・目標】

臨床で予防・診断・治療のために用いられる頻度の高い薬剤を中心に、薬物の構造、作用点、薬効、薬効に影響を及ぼす因子、適応、用法とその根拠、薬物動態・代謝、排泄、有害事象、薬物の相互作用など、薬理作用と作用機序、主な副作用について理解し、薬物使用後の患者の生活調整、回復力の促進、患者の服用管理能力やQOLの向上など、効果的な服薬指導を行うための知識や技術を習得する。

【授業内容・スケジュール】

1. 薬理学入門Ⅰ（講義：西谷）
2. 薬理学入門Ⅱ（講義：西谷）
3. 薬物の作用点・受容体（1）（講義：陳）
4. 薬物の作用点・受容体（2）（講義：陳）
5. 薬物の吸収・分布（講義：西谷）
6. 薬物の代謝・排泄（講義：西谷）
7. 薬物相互作用Ⅰ（講義：納富）
8. 薬物相互作用Ⅱ・薬害（講義：納富）
9. 中枢神経に作用する薬物（講義：山本）
10. 看護師に必要な感染症診療の考え方とアセスメントの視点（講義：井上）
11. 看護の視点で考えるポリファーマシー（講義：井上）
12. 患者の薬物管理と生活調整の支援：学生は臨床薬理学で学んだ知識を活かし、患者の薬物管理と生活調整の支援について、根拠を示しながら事例をプレゼンテーションしディスカッションする（演習：井上）
13. がんと薬物療法：標準治療と副作用、薬物投与後の患者のモニタリングと回復力促進のための支持療法（講義：上田）
14. 患者のセルフケア能力を踏まえた内服管理，化学療法時の副作用対策と療養生活でのセルフケア能力を踏まえた援助，患者モニタリングの方法と回復力を促進するケアについて教授し事例を基にディスカッションする（演習：山田）。
15. 学生はこれまでの学びを踏まえ，がん薬物療法を受けるがん患者の症例から，作用機序を説明し，患者モニタリングの方法と回復力を促進するケア，生活の調整，QOL を踏まえたアプローチについてプレゼンテーションしディスカッションする（演習：山田）。

【評価】

- ・各授業に関係した事前準備（20%）
- ・プレゼンテーション（40%）
- ・最終の授業での事例においてディスカッション後のまとめを行い提出する（40%）

【教科書】

特になし

【推薦参考図書】

標準薬理 第7版

がん緩和ケアガイドブック 日本医師会 青梅社

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 金原出版株式会社

倉田 宝保：がん治療医が本当に知りたかった緩和ケアのレシピ, MEDICALVIEW, 2020.

大野能之：医療現場のための薬物相互作用リテラシー, 南山堂, 2019. 他

【その他】